

令和4年度トビイロウンカ薬剤感受性検定

長崎県農林技術開発センター病害虫発生予察室

1. 試験目的

水稻の重要害虫であるトビイロウンカについては、近年多発傾向にある。本虫は一部の薬剤に対する感受性が低下しており、防除対策を立てる上ではその動向に注意する必要がある。

このことから、各種薬剤に対する感受性検定を行い、効率的なウンカ類防除の一助とする目的で実施した。

2. 試験方法

- (1) 供試虫：令和4年9月西海市大瀬戸町、10月諫早市小船越町（予察圃）においてトビイロウンカを採集し、累代飼育1～5世代後の長翅雌成虫を用いた。
- (2) 供試薬剤：トレボン（エトフェンプロックス）、スタークル（ジノテフラン）
- (3) 検定方法：微量局所施用法による。バーカード社の手動アプリケータを用いて1頭あたり、0.08 マイクロリットルのアセトンに溶かした薬液を長翅雌成虫の頭部から胸部に塗布し、その後、少量の芽だしイネ苗と共にプラスチック容器に入れた。各薬剤処理24時間後に生死の判定を行い、苦悶して脚を動かすものつかまっていられない個体は死虫とした。なお1薬剤の反復は15頭前後×3反復とした。



3. 結果

- (1) トレボン（エトフェンプロックス）

LD₅₀ 値は前年同様低く、感受性は高い傾向であった。

- (2) スタークル（ジノテフラン）

LD₅₀ 値は前年同様低く、感受性は高い傾向であった。

表 トビイロウンカに対する各薬剤の薬剤感受性

年次	採集		トレボン		スタークル	
	地域	月日	LD ₅₀	b	LD ₅₀	b
R4	西海市大瀬戸	9.15	2.2	1.1	—	—
	諫早市小船越	10.5	—	—	7.6	1.8
R3(参考)	西海市大瀬戸	9.21	5.6	2.6	5.4	1.8

LD50 値の単位は $\mu\text{g/g}$ 。bはプロビット回帰曲線の傾き